

やす は やす かず

安場保和

難地県の治政を託されて — 愛知県の殖産興業の司令塔 —



安場保和(1835～1899)
肖像画：愛知県公文書館蔵

安場保和は、1835(天保6)年、肥後藩士安場源右衛門の長子として生まれ、青年時代は横井小楠に師事した。官軍東征の際は江戸城引渡に立ち合った。維新後、1869(明治2)年、胆沢県(岩手)大参事となって官界入りし、給仕として採用した後藤新平を見出し、後に愛知県病院に招いた。酒田県(山形)、熊本県、大蔵省大丞租税権頭を歴任した。1872年、大久保利通に見出されて、岩倉大使欧米使節団に随行し、帰国後福島県令を経て、1875年愛知県令に就任、1880年3月までの約5年間県政を担当した。愛知県令を辞した後は、元老院議員、福岡県知事、貴族院議員、北海道長官などを経て、1899年5月逝去した。

■ 愛知県令としての施策

安場は、愛知県令として地租改正問題に辣腕を振うとともに、後藤新平を登用して衛生行政を推進した。大久保内務卿の進めた勤業施策にも力を注いだ。1878年に全国に先駆けて勤業課を設置して勤業奨励に尽力した。大規模灌漑事業として知られる明治用水の重要性を認め、自ら管内の

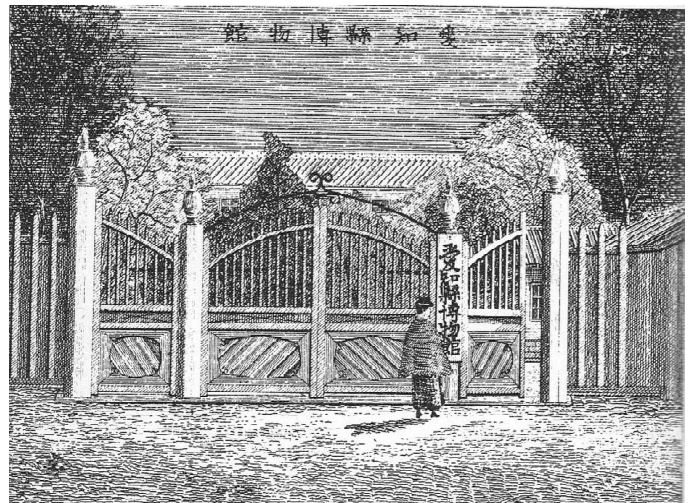
素封家を懇諭して投資を募り、灌漑用溜池の敷地や官林の無償払下を許し、工事を開始に導いた。

■ 博物館開設と内国勤業博の開催

1878年9月には「広く四方工産物ヲ蒐集シ大ニ工業ノ裨益ヲ起サンガ為メ」有志の寄付金と県資金とをもって博物館を設置し、内国勤業博覧会を開催して明治天皇の行幸を仰いだ。博物館は大須の総見寺境内に設置され、後に愛知県博物館、商品陳列館となり、一部は熱田神宮境内に龍影閣として残っている。

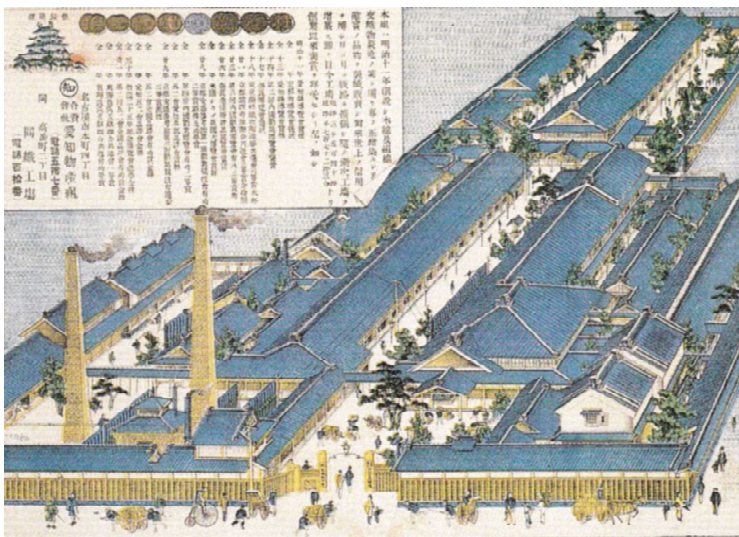
■ 愛知県織工場の設置

1877年9月、士族授産の施策として、名古屋久屋町に織工場を設け、幅広小倉綿フランネルや結城縞等の機杼の伝習の場とした。1878年5月には旧藩主徳川慶勝から年額2千円の寄納があり、設備の拡充がはかられた。後に就業生の制度化、分工場の設置、協力工場との提携など、士族授産事業の柱となった。



愛知県博物館

出典：『尾張名所図絵』1890



愛知物産組織工場

出典：『新修名古屋市史』第5巻

■ 愛知物産組の支援

愛知物産組は祖父江源次郎等によって、1878年1月、困窮士族の就産の一助として設立された。絹木綿、絹綿交織物を生産し、雇用する工女は県織工場卒業の士族婦女子をあてた。1879年9月には、安場の骨折りもあって内務省から資金二万円が貸与された。以後発展をとげて愛知県を代表する織物会社となった。

養蚕伝習所、県織工場を設置等の勤業政策を積極的に推進した。

(浅野伸一)